

こんにちは、堀内歯科院長の堀内晃です。
今号のお題は、入れ歯の歯についてです。
入れ歯は一般的に「咬めない」、「痛い」、「違和感が強い」などネガティブなイメージが強いものですね。
ただ、私がさせていただいている義歯については、部分入れ歯でも総入れ歯でもですが、何にも違和感なく咬めるとおっしゃっていただいています。これ本当の話なんです。



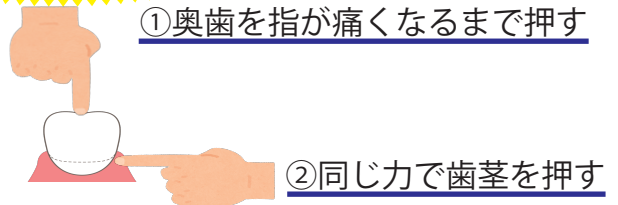
歯並びでこぼこの総入れ歯は見たことないですよね？

長年入れ歯で苦労しておられる方は是非体感してみてください。

さて、このようになかなかすっきりしない入れ歯ですが、まず、もともと歯がなくなった原因に歯並びがあることですね。「歯はありさえすれば咬めるのが当たり前」と考えておられる方が多いと思われそうですが、これが間違い。ですから高齢の方で総入れ歯の方もおられれば、同じ年齢の方で全部ご自身の歯という方もおられるわけです。もちろん歯みがき習慣の良し悪しもありますけどね。

前置きが長くなりましたが、今回は歯の形だけにスポットを当ててお話をします。
入れ歯の方も、そうでない方も一つ実験をしてみたいんですが、右の図のようにご自身の奥歯を指で指が痛くなるまで押してみてください。
そして、今度は、その同じくらいの力で歯ぐきを押してみましよう。
指ではなくて、歯ぐきが痛いと感じるはずですね。

試してみてください！



①と②どちらが痛いですか？

歯ぐきは、歯と比較して5分の1の力しか支えられません。
歯ぐきがやせてくると20分の1と言われていています。
普通に考えると入れ歯にした時点ですでに痛くて咬めないわけですね。
みなさん、切れない包丁をイメージしてみましよう。
切れない包丁で鶏皮を切ろうとしたら、力がすごく要りますよね？でも切れる包丁なら力を入れずに「サッ」とキれるわけです。勘のいい方はすでにご理解されているかもしれませんが、歯の形を切りやすい形に変えてあげることによってたとえ支える力が5分の1になった歯ぐきでも切ることができるわけですね。
要するに歯ぐきの支える力が減少した分を刃先である歯の形を切りやすい形に変えてあげることによって違和感なくなんでも咬める入れ歯にすることができるということなんです。

有歯顎 (天然歯)	顎堤吸収中程度	顎堤吸収著明
1	1/5	1/10~1/20
<p>科学的に検証された よく咬める入れ歯用の歯の形</p>		